

# こうれん ふくい



も く じ

第35回福井県公民館セミナー〔前期〕報告……………1～3  
 特集 公民館訪問～地域の防災～  
 福井市国見公民館・鯖江市新横江公民館……………4～5  
 第73回福井県公民館大会報告……………6～7  
 第35回福井県公民館セミナー〔後期〕報告……………8～9  
 こうれんトピックス  
 ○嶺南通信 ～敦賀市・小浜市～……………10  
 ○優良公民館・全国館報コンクール・令和7年度事業予定……………11  
 ○令和6年度表彰受賞者・県公民館広報紙コンクール入賞館……………12



講師 宮崎賢哉氏




**第35回福井県公民館セミナー〔前期〕報告**  
**防災教育「知る、学ぶ」から「やってみる」**  
**「自分の事」として取り組む防災」**  
 令和6年7月11日(木)  
 坂井市高棕コミュニティセンター  
 参加者 85名

第35回福井県公民館前期セミナーは「防災教育「知る、学ぶ」から「やってみる」」「自分の事」として取り組む防災」をテーマに、坂井市高棕コミュニティセンターにて開催しました。このセミナーでは令和6年1月1日に発生した能登半島地震を踏まえ、これまで取り組んできた地域の防災に関する活動を見直し、さらなる地域住民の防災意識向上を図るために公民館等がどうあるべきかを考えました。

講師に災害支援・防災教育コーディネーターの宮崎賢哉氏をお招きし、午前は「災害対応サイクルと防災対策の基本」と「避難所運営の要点」について講義をお聞きした後、グループに分かれ、2種類の防災ゲームを活用して「災害情報と避難行動」、「災害時要配慮者支援と福祉避難所」について学びました。さらに、午後からは総合演習として「避難所運営ゲーム(HUG)」の実践を行い、非常に充実したセミナーとなりました。

次ページでは、参加者が体験した3つの防災ゲームについて報告します。



## 防災カードゲーム(クロスロード)

阪神淡路大震災後に考えられたゲームで、「人数分用意できない緊急食料をそれでも配るか」、「学校教育の早期再開を犠牲にしても学校用地に仮設住宅を建てるか」などの設問カードに全員がイエス・ノーで答えます。設問の正解は示されておらず、少数派、多数派、それぞれの意見を交換することで、いざ現場に立った時の判断力を養います。判断に迷った際は「最悪の事態を想定して」行動する、いわば究極の選択を学べる内容でした。



「クロスロード」とは「重大な分かれ道」、「人生の岐路」のこと



仮想のタウンマップの住人となった想定で、その地区にすむ様々な特性を持つ人々に対し、どのような理由で避難優先順位をつけるかを考えるゲーム。熊本地震の際にも問題となった災害時要配慮者支援、福祉避難所開設のタイミングなどを考える上で、地域の人たちへの関わり方が重要で、その人の状況や考え方が把握できないと適切な避難誘導はできないことを知る内容でした。

## 避難行動訓練(EVAG(イーバグ))



避難行動訓練 (Evacuation Activity Game) のようす



## 避難所運営ゲーム(HUG(ハグ))

机上で避難所を開設し、避難者の情報や何らかの事態発生を知らせるカードが読み上げられるたび、それらへの対応を考えながら避難所運営を疑似体験するゲーム。様々な状況を想定した内容であり、「平等なルール」と「公平なルール」の違いを考えさせられるゲームでした。

災害発生時に実際に避難所となる公民館や小学校等の建物の平面図を用いてシミュレーションを行うと、より実践的な訓練として活用できそうです。



避難所(ひなんじょ:H)運営(うんえい:U)ゲーム(G)…略してHUG!



最後に、講師の宮崎氏は「人は忘れる生き物」であり、繰り返し防災訓練や対策をすることに意味がある」、「知らない」と「忘れた」は根本的に違うので、何度でも学び、取り組み続けることが災害に対する一番の備えである」と述べられました。セミナーは閉幕しました。



## ふりかえりシートより

◇「プロアクティブの原則：疑わしい時は行動せよ、最悪事態を想定して行動せよ、空振りには許されるが、見逃しは許されない」が心に残りました。災害のときもそうですが平時でもその心構えで仕事に取り組みたいと思いました。

◇避難することは大切だが、実際に避難行動をする人が少ないと思う。「あなたの避難がみんなの命を救う」をモットーに声がけを心がけようと思う。

◇水分や食事の確保より先に仮設トイレのほうが優先しないといけないことがわかりました。

◇「マニュアル7割、臨機応変2割、発想の転換1割」

◇災害は急に起こる事で、どんなに準備していてもパニックになると思う。何度もくり返し行い、スムーズに対応できるよう心がまえが必要だと思った。地区でのマニュアル作り、同じ意識を持つことが大切だと思った。

◇地域で培った関わり、繋がり、日頃の活動、取り組みが役に立つ。

◇避難所に来る方の多様性にどこまで寄り添えるか。優先順位のつけ方、判断の重要性の難しさ、いろいろなことを感じましたし、演習をするしないで大きく違ってくるので、ぜひこの HUG を地域に持ち帰りたいと思いました。真剣に仮想する訓練は大切ですね。

◇いろんな方の考え方を聞くことができてよかった。絶対に正しい答えはないんだということがわかった。すべてを平等にすることは無理だと思うが「公平なルール」を作っておけば、避難所でもスムーズに運営できるのではと思った。

◇実際に災害が起こった場合、対応できるか不安ですが、今日学ばせていただいたことを思い出し、率先して対応できるよう日々心がけていきたいと思えます。

100均で揃える

### 防災グッズ ボトル

セミナー会場で展示していた「防災グッズボトル」をご紹介します。日頃の備えとして用意してみてもいかがでしょうか。中身はご自分に合わせて選んでみてください。



- |                       |                             |
|-----------------------|-----------------------------|
| □ プラスチックボトル (770ml) 1 | □ 携帯ミニトイレ 1                 |
| □ コンパクト レインポンチョ 1     | □ 簡易ブランケット 1                |
| □ アルコール消毒綿 2          | □ 除菌アルコールウェットシート 1          |
| □ 消臭ポリ袋 2             | □ トラベルセット (アイマスク、耳栓、絆創膏等) 1 |
| □ マスク 1               | □ マウスウォッシュ 1                |
| □ 紙石鹸 (5枚) 1          | □ 氷砂糖 (3個) 1                |
| □ ペーパータオル (5枚) 1      | □ 現金                        |
| □ ライト、ホイッスル 1         |                             |



# 福井市 国見公民館

〒910-3402 福井市鮎川町133-1-3

電話 0776-88-2004



公民館のみなさん



ふるさと探訪・ふるさと宝探し

国見地区は福井市最西部に位置し、福井市の中心部から約30km、車で約50分のところにあります。国見町、鮎川町、白浜町、大丹生町、小丹町の5町内からなっており、風光明媚な自然に恵まれた海岸地帯です。令和元年に現在の場所に新築移転した国見公民館は、地区を見渡せる高台にあり、オーシャンビューで自然を体感できる施設となっています。

歴史は古く、平安末期、源平合戦の末に平家が落ち延びた地と言われています。また、鎌倉時代、源頼朝に追われる義経と弁慶一行が休息をとったとの伝説が残る「弁慶の洗濯岩」は、日本海の荒波によってできた美しい浸食海岸です。今回は、そんな国見地区の魅力や特色ある防災の取り組みについて、松井館長に伺いました。

## 国見型グループ避難方式



海と山に囲まれた沿岸部特有の地形から住民の防災意識は元々高く、日頃から「向こう三軒両隣」の近所づきあいを活かした、地区独自の「国見型グループ避難方式」を取り入れ、毎年訓練しています。

それが活かされたのが令和6年1月に発生した能登半島地震の時でした。松井館長が公民館に着いた頃には既に多くの住民や旅館の宿泊客が来ており、公民館と隣接する鮎川会館も開放して計130人の避難者を受け入れられました。ただ、受け入れ人数に限界があることなど、避難所について行政とともに考えていく必要があることも課題として見えてきました。災害時には想定外の問題が起こるものですが、避難してきた人々の中から数名の若者が自主的に椅子を並べたり、炊き出しに取りかかったりと、嬉しい”想定外”もあつたと松井館長は語られました。実際に炊き出しをした人たちの意見を反映して、今年度は米の備蓄や調理室の使い方のマニュアル化が進められました。また、現在は各区にボランティアリーダーを配置するなど連絡体制の強化にも取り組んでいます。

## ふるさとの魅力再発見

国見地区は高齢化率の高い地域ですが、小中学生を対象にした教育事業にも熱心に取り組んでいます。子どもたちが地区の魅力を再確認し、誇りを持てるよう、小学生は「ふるさと宝探し」、中学生は「ふるさと探訪」と称して地区内の景勝地や神社をめぐり、その歴史を学ぶ活動や、子どもたちの交流や学習のため、地元講師を招いて「化石探し」や「海洋ゴミ学習」、「版画教室」などを行っています。令和7年1月1日現在、世帯数は390戸900人を切った国見地区。しかし、この土地の魅力に惹かれ他県から移住して来られた方もおられます。これからも、国見公民館では、地区の安全を守るとともに、伝統文化の継承や地区住民のための公民館活動を続けていきます。

## おすすめ!! スポット



くみクラゲ公民館  
旧国見公民館の建物を再活用しています。珍しいクラゲや日本海の生き物をメインに展示。

# 鯖江市 新横江公民館

〒916-0036 鯖江市横越町1-43-2

電話 0778-51-2969



公民館のみなさん

公民館玄関ロビーの子ども遊びのびのび広場



防災百人一首に挑戦!

新横江地区は、鯖江・越前両市街地で形成される鯖武(せいぶ)盆地のほぼ中央に位置し、東側には三里山の三峰が連なり、地区中央部を浅水川と穴田川が流れる自然豊かな地域です。

地区内には国道8号線や北陸自動車道が通り、鯖江インターチェンジが設置されていることから、「鯖江市の玄関口」になっています。また、市総合体育館や文化センターなどの施設を有し、スポーツ・文化の拠点地域の役割も果たしています。

新横江公民館は、昭和63年に建設された施設の老朽化に伴い、令和5年9月から大規模改修が行われ、令和6年9月に工事が完了しました。リフレッシュした新横江公民館の瀧波館長からお話を聴きました。

## 抜き打ち!? 避難訓練!

地域交流事業(公民館合宿通学事業)は子ども



たちの自主性を育てることに主眼において実施しており、本年度は6月30日に小学4年生の児童を対象に実施しました。ちょうど公民館が改修工事だったため、鯖江市文化センターにて日帰りの開催となりましたが、27名の児童が参加し防災について学びました。

午前中は防災士の方から話を聞いた後、「防災百人一首」で遊びながら災害に関することを学びました。昼食は初めての非常食試食体験。アルファ米とカレー、スプーンがセットになった非常食カレーです。自分で作って、食べてみた子どもたちからは「思ったよりおいしい」という声が聞かれました。

午後は、大ホールで鯖江中学校ブラスバンド部の演奏会鑑賞。演奏が始まると突然鳴り響くアラーム警報!子どもたちはびっくりしながらも、皆、あわてずに出口に向かって順序良く避難し、班ごとに人数確認もできました。演奏会の最中に避難する状況となったらどう対応するかを、実践的に学ぶ良い機会となりました。

## 次世代へつなぐ地域の宝

新横江公民館では、地区の緑豊かな自然、歴史、伝統文化、人物などを地域の宝として広めたい、次世代に伝え続けたいという思いから、地区の魅力を盛り込んだ「かるた」を作成しました。子どもから大人まで、かるた遊びを通して楽しく学ぶことができると好評を得ています。

また、子育て支援としては、親子のふれあい、運動会、ミニコンサートなどを定期的に開催し、0歳児から未就園児までの乳幼児の親子の交流、情報交換、育児相談などの場として子育てサロン「サザエさん」を実施しています。

今後も様々な公民館事業に取り組みながら、地域の拠点として人と地域を結び、地域コミュニティをより豊かにしていきたいと力強く語っていただきました。

## おすすめ!! スポット



許佐羅江清水(こさらえしろうず)定次町。舟津神社ゆかりの「舟津七清水」の一つ。口当たりやわらかな水質が特徴。

「住民とともに地域の未来を創る公民館」

〜ひと、もの、地域の宝を活かして〜

令和6年9月25日(水)越前市文化センター 参加者229名



開会式典

▼越前市長 山田賢一 氏



表彰式



第73回福井県公民館大会が越前市文化センターにて開催され、「住民とともに地域の未来を創る公民館〜ひと、もの、地域の宝を活かして〜」をテーマに、県内の公民館関係者が一堂に会しました。

開会式典においては福井県公民館連合会表彰11名、広報紙コンクール表彰12館の表彰が行われました。これに加え、一月に発生した能登半島地震の影響により第46回全国公民館研究会・第59回東海北陸公民館大会石川大会が中止となったことを受けて、全国公民館優良職員・永年勤続職員表彰、東海北陸公民館連合会表彰の伝達表彰が行われました。続いて、越前市長 山田賢一様をはじめ、来賓の方々から祝辞をいただき、式典後には、広報紙コンクール審査委員長の福井新聞社編集局 整理部長 大橋一生活様よりコンクールの講評がありました。



平安ゆかりのキャラクター 紫式部

記念講演では、紫ゆかりの館館長の三田村悦子氏を講師にお迎えし、「紫式部と越前国府」と題してご講演いただきました。

NHK大河ドラマ「光る君へ」で注目を集めた紫式部は、『源氏物語』の執筆で世界的にも有名で、ユネスコの「世界の偉人」の一人にも選ばれています。そんな紫式部は青春時代の一年余りを当時「国府」が置かれていた「たけふ(武生)」で過ごしました。その期間や都からの道中などに詠んだとされる歌の数々、また、『源氏物語』に描かれる越前国府についてお話していただき、会場の参加者は遠い平安時代にしばし思いを馳せているようでした。



▲記念講演 講師 三田村悦子氏



アトラクション  
越前万歳



坂井市  
兵庫コミュニティセンター  
伊達センター長・森瀬社会教育士



永平寺町上志比公民館  
田原館長・藤田主事

午後の部は、国の重要無形民俗文化財に指定されている越前市味真野地区の民族芸能「越前万歳」の軽快なテンポある曲と舞で幕を開けました。

続いて令和5年度文部科学省優良公民館表彰を受賞した2館の事例発表が行われました。

初めに、永平寺町上志比公民館の田原幹雄館長と藤田美紀子主事から、「でさることを一つずつ、ついでい・まなび・むすび・つながっていく公民館」と題し、コロナ禍でも学びを止めず、インターネットを駆使して実施したオンライン講座やハイブリッド講座などの紹介がありました。知識も、機材も、環境も十分ではない「無無尽（ないないづくし）」の状況を逆手にとり、創意工夫を重ねながら、現在も活動を継続されています。このほか、地元を知ってもらおうためのウォークラリーや、永平寺町全体で取り組んでいる「希望のひまわり背高のつば大会」、元消防士の田原館長による防災・救急講座、子どもたちを巻き込んだ上志比の映えスポットづくりなど、郷土愛を育てる様々な事業についての発表がありました。

次に、坂井市兵庫コミュニティセンターの伊達毅センター長と森瀬美智子社会教育士から、「地域は『家族』、コ

ミセンは『わが家』と題した発表がありました。兵庫コミュニティセンターでは、たのしむ部会、すこやか部会など7つの部会から成る兵庫地区まちづくり協議会と共に、「おもっしえーを創るまち ワクワク兵庫！」をテーマに様々な活動に取り組まれています。中でも特徴的なのは、プロジェクト淵龍部会による地酒「神力淵龍」造りです。

市の制度の活用や若い世代を呼び込む工夫により、今いちばん熱い活動となっています。一つの目標に向かって意見を出し合い、受け止め合うことで、より多くの住民が自ら活動に関わるようになりました。今後も地域づくりの拠点として、コミュニティセンターが「おかえり」「ただいま」と声をかけ合える居場所であり続けたいと熱く語られました。

地域の拠点である公民館等が、時代の変化やニーズに合った新たな役割や理念を模索しながら、住民と共に、これからの人づくり・地域づくりに取り組みることの重要性を考える大会となりました。





第 35 回福井県公民館後期セミナー報告

# 公民館から始める健康な体づくり

令和 6 年 11 月 13 日 (水) 南越前文化会館

参加者 79 名

第 35 回福井県公民館後期セミナーは、『公民館から始める健康な体づくり』をテーマに、株式会社スタジオユウ代表取締役で理学療法士の福田裕子氏を講師にお招きし、南越前文化会館にて開催しました。半日の研修を午前と午後と同じ内容で行う二部制は、今回初めての試み。午前の部に 32 名、午後の部に 47 名の参加がありました。



▲ 講師著書  
『一生歩ける体をつくる  
10 秒ポーズ健康法』  
サンマーク出版

▲ 講師 福田裕子氏  
「福井のゆうこりん」  
として YouTube でも  
ご活躍です



「エビ」のポーズ  
実践中…

健康法」をご紹介いただきました。

さらに、長年にわたり「立つ、座る、歩く、息をする」という人間の基本動作を探索し、医療や介護の現場で運動指導をしてこられた経験から、高齢による衰弱(フレイル)を予防することの重要性を強調されました。そして、痛み止めを飲みながら働く看護師・介護士の同僚たちや一番身近な存在である母の健康を支えたいという切実な思いから考案された「10 秒ポーズ健康法」

講師の福田氏は、「人体は、きちんと使えば 100 年立ち続けることができる構造になっている。しかし生きるために必要な仕事や日常的な動作の継続によって身体機能は落ちるので、酷使した部位は早めに、こまめに、あるべき位置に戻すことが重要」と、健康な体を維持するコツを教えてくださいました。

◇◇◇

このセミナーでは公民館等が地域住民の「健康の増進」を図るため、健康づくりへの関心を高め、実践的活動ができるよう支援することを目的に、「疲れない、きつくない、つらくない」運動を通して、健康に過ごすために必要なことや大切なことを学びました。



▼ 「吊り橋」は腰痛に！



▲ 「フェニックス」のポーズで肩こり改善！



次に、「10秒ポーズ健康法」に参加者全員が挑戦。今回は、多数ある10秒ポーズのうち、姿勢改善に効果のある「フェニックス」・「祈り」のポーズ、足腰強化のための「ヘソビーム」、腰痛リセット効果のある「吊り橋」・「エビ」のポーズなどを体験しました。ポーズをとったら10秒間止まり、声に出して数えながら気持ちのいいところに意識を向けるだけ。最後にふうっと脱力すれば、じんわりと血流がよくなる感覚を楽しめます。

体験してすぐに「肩こりがなくなった」、「体が軽くなった」と効果を実感する声も聞かれました。特別な道具を準備する必要はなく、高齢者や運動初心者でも簡単に実践できる内容なので、気軽に日常生活に取り入れられそうです。



最後に、福田氏は「地域住民の健康増進のため、新しいことだけでなく、これまでをふりかえって意味付けや捉え方を変えてみるなど、できることを整理して魅力ある計画づくりに活かしてみよう」と締めくくられてセミナーは終了しました。

## フェニックス

- 一歩踏みだし
- あたまと胸を高く保ち
- 両腕を遠くひろげて10秒
- 戻してリラックス



姿勢

講義資料から、10秒ポーズを2つ、ご紹介します！

## 1 ヘソビーム



ヘソからビーム(光線)を出すつもりで、ヘソを前に向けます。あごを引いて、前を見て、頭を高く保ちます。



## ふりかえりシートより

- ・講義を受けて、「運動することにより、生涯、歩行が可能であること」が良く理解できました。
- ・それぞれのポーズに名前がついているので、イメージしやすかったです。みんなができる体操で、気持ちのいいところを意識するので、継続してポジティブに取り組んでいけると思いました。
- ・おへそビームを常に意識して背筋をピンとしていきたい。リハビリに対する固定概念が変わった。今まで参加した健康体操教室より影響を受けた。
- ・細かく、どこがどうなると教えてもらえてすごく納得しました。生活の中で活かせることがたくさんあると知りました。親にも教えたくまりました。
- ・10秒ポーズをやってみて、改めて自分の体に意識を向けてみたいと思いました。公民館の講座にも来ていただきたいです！理学療法士を目指す息子にも講義の内容を伝えようと思います。
- ・自分の町には高齢者向けの生涯学習講座がないので、来年度は今日のセミナーで学んだことを基に高齢者向けの講座を企画・実施したいと思います。「出来ない人を作らない」ことが可能なところが1番魅力的でした。取り入れやすさも素晴らしいと思いました。年々、肩こりがひどくなってきているので、今日から私も10秒ポーズを続けていきたいです！！フェニックスとヘソビームやります！
- ・10秒ポーズ以外に運動、フレイル等についても学べたのでよかったです。「笑いの場をたやさないのが公民館」と言われてハッとしました。

嶺

南 通 信  
～嶺南各地での活動のご紹介～



今回は敦賀市と小浜市から、公民館・コミュニティセンターにおける防災訓練や防災教育の取り組みをご紹介します！

「総合防災訓練 3地区合同開催！」  
敦賀市東郷公民館・中郷公民館・愛発公民館

11月9日(土)、10日(日) 2日にわたる総合防災訓練を敦賀市主催の総合防災訓練を実施した後は、反省点や気づき東郷公民館、中郷公民館、愛発公民館で開催しました。6年ぶりに地区代表者が集まって会議を行った通常開催となった総合防災訓練には、3つの地区から約150名の住民が参加しました。

1日目は、各公民館において、防災士から講義を受けた後、実際にテントや簡易ベッドの組み立て、簡易トイレの設置などを体験。2日目は、主会場となった東郷公民館に集まり、震度5強の地震発生を想定して炊き出し訓練や電力供給訓練、ドローンを使用した支援物資の輸送訓練も行われました。

「トイレ問題」が挙げられましたが、一人用のテントで覆われた簡易トイレの方が簡単に使え、良いと感じたなどの意見が出され、改めて防災について真剣に考える良い機会となりました。



「今富避難行動訓練2024」  
小浜市今富コミュニティセンター

小浜市今富コミュニティセンターでは、8月25日(日)に「今富避難行動訓練」を実施しました。当日は朝8時30分に防災無線放送があり、各地区から徒歩で避難開始。約200名の参加がありました。

今富地区は、昭和28年9月の台風13号で甚大な被害を受けた歴史があります。その記憶や教訓を語り継ぐため、訓練会場では当時の写真をパネル展示しました。また、防災士の方々による防災グッズや防災食の紹介、起震車による地震体験やスナック菓子を利用した防災食づくり、新聞紙とごみ袋での簡易トイレづくり体験など、充実した訓練となりました。このほか、参加者に1月の能登半島地震発生時の避難状況や、各家庭の災害への備えに関するアンケートを配布。回答者には携帯トイレや備蓄用ライト等、実用的な防災用品をプレゼントしました。



さらに、9月には地区防災会主催の「防災講演会」を開催して「災害で助かった後の住宅補償」について学び、子育て教室においても「乳幼児のいる家庭での災害対策」について学ぶ機会を設けるなど、様々な視点から災害について考えることができました。

## 優良公民館表彰 受賞館決定！

第77回優良公民館表彰（文部科学大臣表彰）において、福井県からは下記の2館が受賞となりました。誠におめでとうございます。

### 福井市国見公民館

「防災は絆づくりと事前対応  
～避難は向こう三軒両隣で」

### 越前市北日野公民館

「公民館のキャッチフレーズは  
“いこどこよこよこ”」

表彰式は文部科学省にて令和7年2月28日（金）に行われます。これらの館の活動については、令和7年度に開催の第74回福井県公民館大会にて事例発表をしていただく予定です。

## 第36回 全国公民館セミナー

第36回全国公民館セミナー（全国公民館連合会主催）は『「ツナガルシクミ」をみんなで作る』をテーマに、令和7年2月19日（水）～21日（金）、東京都千代田区丸の内マイプラザにて開催されました。

福井県からは、福井市中央公民館主事の塩崎めぐみさん、坂井市高椋西部コミュニティセンターの社会教育士 新井真理子さんの2名が参加されました。

## 全国公民館報コンクール

## 金賞・奨励賞を受賞！

第10回を迎える全国公民館報コンクールでは、応募総数75件の中から、福井県からは下記の館が選ばれました。誠におめでとうございます。

金賞	小浜市松永コミュニティセンター
奨励賞	坂井市高椋東部コミュニティセンター

このうち、金賞に輝いた小浜市松永コミュニティセンターは、同コンクールの第6回（平成28年）開催時の特別賞受賞以降、より良い紙面づくりを追求し続け、令和2年（第8回）に審査委員賞、令和4年（第9回）に銀賞を受賞し、今回の金賞受賞に結び付けました。

詳しい講評は『月刊公民館（発行 全国公民館連合会）令和7年3月号』に掲載される予定です。



▲ 松永コミュニティセンターのみなさん

## 福井県公民館連合会

## 令和7年度事業予定

### (1) 福井県公民館連合会総会

期日 令和7年5月23日（金）

会場 福井県生活学習館

### (2) 福井県公民館セミナー

前期：期日 令和7年6月下旬～7月

会場 福井県生活学習館

後期：期日 令和7年11月～12月上旬

会場 未定

\*前期・後期ともに1日開催、参加費1,000円

### (3) 公民館広報紙コンクールの実施

8月中旬応募締め切り

8月下旬審査会

### (4) 福井県公民館大会

期日 令和7年10月22日（水）

会場 あわら市

参加費 1,000円

### (5) 第47回全国公民館研究集会東京大会

期日 令和7年11月12日（水）・13日（木）  
（後日オンデマンド配信）

会場 東京国際フォーラム

参加費 3,000円

（オンデマンド配信は2,000円）

※令和7年度は東海北陸公民館大会の開催はありません。

## 令和6年度表彰受賞者

(敬称略)

### 全国公民館優良職員表彰

福井市宝永公民館 館長 塚谷 直人

### 東海北陸公民館連合会表彰

福井市社南公民館 主事 八木 千才

鯖江市片上公民館 公民館主事 石田 博章

### 全国公民館永年勤続職員表彰

福井市豊公民館 主事 金木美東里

福井市大安寺公民館 主事 笹岡可奈恵

坂井市磯部コミュニティセンター  
コミュニティセンター主事 松崎香奈恵

坂井市浜四郷コミュニティセンター  
コミュニティセンター主事 魚谷 啓子

若狭町瓜生公民館 主事 畠中八重子

### 福井県公民館連合会表彰

福井市清水東公民館 館長 鈴木 幹夫

福井市西藤島公民館 主事 森國 和代

福井市一光公民館 主事 竹内 慶一

小浜市小浜コミュニティセンター  
コミュニティセンター長 中 幸俊

大野市乾側公民館 前公民館主事 吉見 朋子

鯖江市鯖江公民館 公民館主事 権藤 明美

越前市味真野公民館 公民館主事 椿原 香織

越前市花筐公民館 公民館主事 辻岡 秀美

坂井市鳴鹿コミュニティセンター  
鳴鹿第2コミュニティセンター  
コミュニティセンター長 辰川 勇一

坂井市丸岡城のまちコミュニティセンター  
コミュニティセンター主事 廣嶋 由美

永平寺町上志比公民館 主事 藤田美紀子

## 福井県公民館広報紙コンクール 入賞館

### Aコース

最優秀賞 坂井市東十郷コミュニティセンター  
『ごうちゃんひろば』

優秀賞 坂井市高椋東部コミュニティセンター  
『振媛の郷 たかとり』

優良賞 福井市社北公民館  
『広報やしる北』

### Bコース

最優秀賞 福井市文殊公民館  
『こんにちは 公民館です!!』

優秀賞 あわら市本荘公民館  
『本荘公民館だより「おかすが」』

越前市武生南公民館 『南の風ニコ・サン』

越前市岡本公民館 『ふるさとおかもと』

優良賞 小浜市松永コミュニティセンター  
『まつなが』

小浜市今富コミュニティセンター  
『岳』

鯖江市立待公民館 『立待ぶらり』

あわら市劔岳公民館 『かりやす』

坂井市三国コミュニティセンター  
『まち協だより「392PLUS」』



上記の方々への表彰は、令和6年9月25日(水)、  
第73回福井県公民館大会の席上にて行われました。

「こうれんふくい」第94号

《発行》 福井県公民館連合会

〒918-8135 福井市下六条町14-1

福井県生活学習館2階

TEL/FAX (0776) 41-4077

E-mail [f-kouren@kore.mitene.or.jp](mailto:f-kouren@kore.mitene.or.jp)



WEB サイト



Facebook

《編集》

広報紙委員会

福井市啓蒙公民館

越前市北新庄公民館

あわら市中央公民館

福井県公民館連合会事務局

谷口さおり

竹内 慶子

小林 和夫